



学校教育目標

鴨庄の里で育む 自立と協働

めざす子ども像

- [自立] なにごとも自分で考えて、行動のできる子
- [協働] 人のためになることを、すすんでできる子
- [創造] 大きな夢を持ち、粘り強くがんばる子



重点 子どもたちが自ら学んでいくこと

[自立]

1. 考え抜く習慣
2. 自学・自習する力（自走）
3. 情報活用力
4. 外国語の活用
5. SOS の出し方教育プログラム

[協働]

6. 双方向のコミュニケーション能力を高める

[創造]

7. 発信・地域参画（価値ある追究）



めざす教師像

- ・何を努力すればよいのかの認識があり、それが共有されている
- ・変化への感度が高く、迅速に対応する
- ・児童の自律型の学びへの転換を図る
- ・社会的な課題に自ら取り組む

重点 職員が工夫・改善していくこと

1. 組織的な学校運営

報告・連絡・相談の慣行

「観」を揃えた指導

「教育」をわかりやすく伝える

ダイバーシティ&インクルージョン

2. 学校統合への移行と閉校にかかる業務

令和5年度教育課程の構築

地域教材の整備

交流授業における児童の人間関係の構築

その他、諸案件に対応

3. 新型コロナウイルス感染を踏まえた対応

めざすコミュニティ・スクール

主体性を持った学校運営協議会の主導により、地域・学校・家庭がそれぞれ本来の役割を発揮し、地域の教育力を活かした学校と、持続可能なコミュニティを形成する。また、鴨庄地域の人・物・事を統合校につなぐ仕組みを整備する。



本校の特色ある取組

- (1) 「鴨庄っ子太鼓」
- (2) 鴨庄の歴史・文化・産業を活かした「ふるさと学」
- (3) 五感を通して対象を知る体験的な活動
- (4) 「人と関わる」喜びを育む全学年合同学習・活動
- (5) 発表の機会の多さを活かした表現力の育成



児童の実態

良さ — 自分のペースで学校生活を送り，心に余裕がある。

- ・学力少人数を生かしたきめ細かな指導を受けている。
- ・繰り返し学習するものでは，時間内に何回も挑戦することができている。
- ・1人1人の果たす役割が大きく，その活動を通して自覚と責任感が高まっている。
- ・運動場や特別教室，校舎内の設備など，1人分を余裕を持って使っている。
- ・子ども相互，特に異学年との信頼関係や相互理解を深めている。
- ・生徒指導において，問題点の早期発見，早期対応ができている。
- ・教員は，全校児童を把握している。



課題 — 自ら学ぶ姿勢とコミュニケーション能力

- ・学校でできているが，学校外でできないことが多々見られる。
- ・切磋琢磨する機会が少ない。人間関係にも揉まれておらず，全体的にのんびりしている。
- ・多様な考えや価値観を持った児童との出会いに恵まれにくいため，知的刺激が少ない。
- ・話し合いをする人数，発表を聞く人数が少ない。
- ・友人関係の固定化や序列化を招くおそれがある。
- ・お互いの気持ちを気遣い，自分の意見をはっきりと言えないことがある。
- ・集団の中で培われる力が育ちにくい。（協調性，我慢する力，集団の中で生きる力など）
- ・全員が参加しなければ活動が成り立たず，個の選択ができないケースがある。
- ・発表場面で声が聞こえにくい場合や，最後まで言い切らない場合も，周りがくみ取ってしまう。
- ・教員は「教え過ぎ」「関わり過ぎ」の傾向にあり児童が自ら課題解決していく機会を減らしている。

学力調査から見えてきた成果と課題

【ノート指導の成果】

- ・解き方や考え方を順序立てて説明することや，教科の用語を使って説明することの助けになり，理解を深めたり対話的な学びに繋がったりできている。

【「みな学」の成果】

- ・全校児童を全教職員でみる「みな学」は，学習習慣を整える面での成果があった。効果を上げるためには，個（習熟度）に応じた課題を選択させることが必要である。

【基礎学力の定着に課題】

- ・主体的・対話的な授業作りは引き続き行うが，学んだことを定着させるために練習問題に多く取り組むなど，「わかる」を「できる」にする学習もおこなう。家庭学習のみに頼らず，学校にいる時間内に基礎学力の定着を図る。また，個に応じた学習方法に取り組みさせるために自学の習慣をつける。定期的な学習面談で個々に支援する。

【問題を読み取る力に課題】

- ・週末に国語科の発展課題を出し，書く力や文法の力を定着させる。

子どもたちが自ら学んでいくこと

自立

自学自習できる力を授業で培っていく。児童には、学びのプロセスをふり返るための学習面談や声かけを行い、個別最適な学習方法を見出していくための支援をする。苦手から逃げ、間違いをそのままにしては伸びないと気付かせるとともに、授業で取り組む問題量と質を上げていく。

そのような学習観を生活の基盤にも据え、自らを変えていく児童を育成する。

また、学校統合時に適切な援助希求行動（身近にいる信頼できる大人にSOSを出す）がとれることを目的とした教育プログラムを施し、SOSの出し方のみならず、そうした友達の感情を受け止めて、考えや行動を理解しようとする姿勢（SOSの受け止め方）についても考えさせる。

重点項目

1. 考え抜く習慣をつける

- 思考の過程がわかる算数ノートをめざす。
- 間違えた理由を考える習慣をつける。
- 国語科の発展問題を週末課題で取り組む。
- output = 書く・話す では、言葉の使い方を自覚する。

「しっかり考えましょう」
からの脱却

教員は、しっかり考えるとは、何を手がかりにどのように考えることなのか、何をどう関連付けてどう書くことなのかを明確に持ち導く。

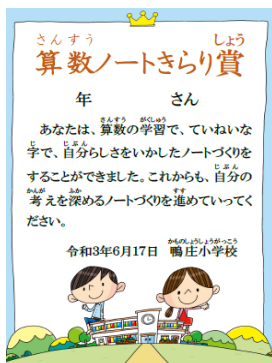
2. 自学・自習する力をつける(自走)

- 自走には基礎学力が必須である。スキルタイムや授業内に時間を確保し、基礎学力を身につける。
- 学習面談を受け、最適な学習法を見つける。

3. 情報活用力をつける

4. 外国語を活用する

5. 適切な援助希求行動を学習する (SOS の出し方教育プログラム)



		レベル1	レベル2	レベル3
一人で考える	絵や図・式・言葉に表して書いている。	○や絵やテープ図などを使って書いている。 式を書いている。 言葉を書いている。	図・式・言葉をつなげて書いている。	自分の考えたすじ道を、順序立てて書いている。
みんなで考える	メモを書いている。 友だちの意見をふき出して書いている。	先生に言われたポイントを書いている。	先生や友だちの言ったことで、大切だと思うことを書いている。	先生や友だちの意見から、自分の考えと比べて気づいたことやわかったことを書いている。
ふりかえり	ふり返りを書いている。	記号(○・△など)で書いている。 わかったことなどを自分の言葉で書いている。	今日の学習について気づいたことを自分の言葉で書いている。	今日の学習のポイントを書いたり自分の考えがどのように変わったかをくわしく書いたりしている。

協働

教科の授業において自分の考えを正しく伝え、自分の意見との違いを考えながら聞く習慣をつける。このような双方向のコミュニケーション能力を活用し、学年活動・異年齢活動においては「人と関わる」喜びを獲得していく。

重点項目

6. 双方向のコミュニケーション能力を高める

- 自分の意見を正しく伝える
- 自分の意見との違いを考える
- 話し方のトレーニング

教員は、様々な学習形態を単元の中でデザインする。

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
<p>挿絵や写真を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となります。</p> <p>▶ A1: 教員による教材の提示</p> <p>画像の拡大表示や書き込み、音声、動画などの活用</p> 	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った速度で学習することが容易となります。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>▶ B1: 個に応じる学習</p> <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>▶ B2: 調査活動</p> <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>  </div> </div>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>▶ C1: 発表や話し合い</p> <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>▶ C2: 協働での意見整理</p> <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>  </div> </div>
<p>▶ B3: 思考を深める学習</p> <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p> 	<p>▶ B4: 表現・制作</p> <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p> 	<p>▶ C3: 協働制作</p> <p>グループでの分担・協働による作品の制作</p> 
	<p>▶ B5: 家庭学習</p> <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p> 	<p>▶ C4: 学校の壁を越えた学習</p> <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p> 

創造

世の中に全く存在しないものを創り出すことは非常に難しく、既にあるものをつないで新しい価値を見出すということが創造性には重要になってくる。そのように考えると、創造性とは「いろいろなものをつなぐ力」だと言える。

令和4～5年の学校統合にかかる2年間では、児童が体験することすべてが「創造」である。鴨庄小学校でしかできない体験に丁寧に向かわせる。

7. 地域に発信・発信する

- 鴨庄の良さを話すことができる
 - 鴨庄のフィールドを活かした授業
 - 鴨庄地域の人から学ぶ授業
- 学びの成果を、地域参画につなげる。 (keyword: 参画・action・双方向)
 - 学びの成果の限定配信, ベジタブル5のような地域参画につなげるなどの、価値ある追究の場を、単元に意図的に組み込んでデザインする。



教職員が工夫・改善していくこと

1. 組織的な学校運営

□ 報告・連絡・相談の慣行

諸対応の留意点

- ① 組織対応
- ② 事実関係の正確な把握
- ③ 迅速な家庭への報告
- ④ 児童・保護者への事後ケア

生徒指導の考え方

- ・ 良し悪しに関わらず、教室の様子や児童の実態を話題にする習慣を持つ。
- ・ 喧嘩やトラブルは、ゼロにすることが目標ではない。適確に対応し自浄能力（組織内の悪弊を自分たちで改めることのできる力）を育てていく。
- ・ 保護者には、学校で起こったことの一部始終を伝えることを基本とする。

□ 「観」を揃えた指導

- ・ 児童がどのようになればよいのか明確にし、指導にあたる。
- ・ そのためには、ゆとりを持って提案する。

□ 「教育」を地域・家庭にわかりやすく伝える



□ ダイバーシティ&インクルージョン

児童が非計画的で無意識的な活動から吸収し、経験する事柄は実に多くある。教員の行動や発言には、その価値観や考え方が反映されているとすると、教員自身がダイバーシティ&インクルージョンの理解を深めることは、教えるよりも影響を与える「カリキュラム」となる。



ダイバーシティとは直訳すれば「多様性」ということで「幅広く性質の異なる者が存在する」という意味である。様々な違い（差異）が存在するダイバーシティは、第1属性（内側の輪）と第2属性（外側の輪）の2つのタイプからなっている。第1属性には、年齢、性別、国籍、人、障がい、LGBTなどの性的マイノリティが挙げられる。第2属性には雇用形態や、婚姻、嗜好、収入、出身地、学歴、趣味や価値観といった他者との「違い」がありその数は無限である。

□ 働き方の質の向上

- ・ 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化
- ・ 水曜定時退勤の完全実施と計画的年休取得

2. 学校統合への移行と閉校にかかる業務

「統合」に対し、様々な意見や思いを持ちながらも、教育環境整備を第一に考えた住民合意であることを理解し、児童・保護者・地域住民のアイデンティティを大事にし、誠意を持って進める。

□ 令和5年度教育課程の構築

- ・ 地域教材の整備（誰にも扱える教材セットに）

□ 交流授業での児童の言動・心情を分析し、両校で児童の人間関係を構築していく。

□ 各所に協力する

通学関係／コミュニティースクール／PTA関係／アフタースクール関係／事務整理／施設整備／閉校式関係／

3. 新型コロナウイルス感染症を踏まえた対応

- 学校における感染症対策を徹底する
 - 「感染源を絶つ」・・・健康観察の徹底。
 - 「感染経路を絶つ」・・・手洗い，咳エチケット，手消毒の指導。密閉空間を回避するために換気を徹底する。密接場面を作らない。
 - 「抵抗力を高める」・・・十分な睡眠，適度な運動，バランスのとれた食事を心がける指導。
- 自宅待機の児童には，状況に応じてオンライン授業等を行う。
- オンライン授業ができない学習については，あらかじめ対策を用意する。
- 夏季のマスク着用など，気候等に応じて児童に指示を出す。
- 心理面のケア，誤解や偏見による差別の防止に向けた取り組みをする。

学校運営協議会を活かした活動

～地域を統合校につなぐ～

1. 「生活科」「総合的な学習の時間」

■統合校の校区に広げ、両地域の地域講師がかかわって学習を進められる教材整備。

【1年】四季の草花・生き物探し

【2年】町探検、野菜栽培

【3年】環境調べ（川探検）、米作り、安全・お宝マップづくり

■両校の特色を残すための教材整備と、取り組む学年の調整。

【4年】鴨庄っ子太鼓、地域の偉人に学ぶ「吉見伝左衛門」

【5年】金管バンド活動

【6年】金管バンド活動、地域貢献活動

*地域講師には、令和5年度の計画案を説明して閉じる。

2. その他 地域関連事業

■令和4年度の各事業を実施しながら、都度、次年度の事業計画について方向性を決めていく。

■地域づくり事業と「社会科」「道徳科」及び諸活動の関連について調整する。

3. その他 地域学校支援

■統合後の、地域学校支援の拠点を構築する。

統合への移行スケジュール（前年度分）

	学校(児童・教職員)	PTA(保護者)	地域関連行事
12		校長間協議	
1		ワーキンググループ会議	地域説明会
2	太鼓引継ぎ式 HP作品展	事務局会議 ワーキンググループ会議	
3	金管楽器体験(4年) 卒業証書授与式 修了式	学校間視察 R4 提案文書作成 代表者会議① 廃棄処理①	統合 PTA 部会 (以降、必要回数開催)

統合への移行スケジュール

R4.4.1. 現在

	学校(児童・教職員)		PTA(保護者)	地域関連行事
4	始業式(7木) 入学式(8金) ▶吉見小との対面式(15金) 家庭訪問(22金) 授業参観・PTA総会(28木)	両校担任・担当打合せ 学校運営協議会①	家庭訪問(22金) 授業参観・PTA総会(28木)	
5	遠足(10火) オープンスクール(24火) 自然学校(30月～3金)		教育相談日(20金) オープンスクール(24火) PTAリサイクル活動(29金)	オープンスクール(24火)
6	▶第1回合同授業日(14火)	民生児童委員との懇談会		
7	個別懇談(12火、14木) 終業式(21木)	学校運営協議会② 学校保健委員会(7木) スポーツ21備品移設 記念品(樹)調査	個別懇談(12火、14木) PTA奉仕作業(24日)	
8	▶鴨庄・吉見地域「熟議」 始業式(26金) 作品展(30火31水)	代表者会議 廃棄処理② 一部備品移設	▶鴨庄・吉見地域「熟議」 作品展(30火31水)	▶案山子祭り ▶鴨庄・吉見地域「熟議」 夏祭り
9	運動会(18日) 創立記念日(26月)		運動会(18日) 教育相談日(30金)	健民運動会(18日)
10	修学旅行(6木、7金) ▶第2回合同授業(18火) ▶第3回合同授業(28金) 合同授業参観・合同PTA行事		▶第3回合同授業(28金) 合同授業参観・PTA行事	
11	音楽会・オープンスクール(19土) マラソン記録会(30水)	学校運営協議会③	教育相談日(4金) 音楽会・オープンスクール(19土) マラソン記録会(30水)	音楽会・オープンスクール(19土)
12	丹波市定着度調査 個別懇談会(15木、16金) 終業式(23金)	代表者会議④ 民生児童委員との懇談会 図書関係移設 廃棄処理③	個別懇談会(15木、16金)	
1	始業式(10火)	新年度提案文書の確認	教育相談日(27金)	
2	▶金管引継式 オープンスクール作品展(2木) ▶太鼓引継ぎ式(21火) ▶プレ登校(27月～3金)	学校運営協議会④	オープンスクール作品展(2木) 太鼓引継ぎ式(21火)	オープンスクール作品展(2木)
3	▶プレ登校(27月～3金) 卒業証書授与式(23木) 修了式(24金) ▶閉校式(26日)	閉校式準備 引越作業(文書・備品・情報機器・児童机・太鼓 etc.) 廃棄処理④	垂箔口座提出 閉校式(26日)	閉校式(26日)
4	▶開校式			